

「不適切者拒否」の可能性も

2010年からスタートする、6年制課程での長期実務実習。目前に迫った長期実務実習の成功に向け、学生の受け入れ先となる病院と薬局では、急ピッチで受け入れ体制の整備が進められている。神戸で開かれた日本薬剤師会学術大会の分科会「薬学教育ルネサンス」では、大学、病院薬剤部、開局者がそれぞれの立場から現状を紹介。現場からは「不適切な学生の受け入れ拒否もあり得る」との厳しい指摘も聞かれた。

実務実習の成功に向けて 現場と大学の連携目指す

受け入れ体制の整備では、ハード面の整備も重要だが、実際に学生を指導する「指導薬剤師」の存在が欠かせない。

日本薬剤師会では日本薬剤師研修センターの認定実務実習指導薬剤師を1万人養成することを目標に掲げ、指導薬剤師養成のためのワークショップへ積極的に参加している。

開局薬剤師のワークショップ参加は04年度ごろから始まり、その数は年々増している。06年度までに2287人がワークショップ

に参加しており、07年度までにはさらに約5000人が、08年度では累計7884人が終了する予定だ。

一方で日本病院薬剤師会でも、指導薬剤師育成や受け入れ施設確保に取り組んでいる。06年までに1246人がワークショップに参加している。また日病薬独自のシステム“グループ・ふるさと実習”などを構築することにより、円滑な受け入れ体制を整える方針だ。

このように、日薬や日病薬では受け入れ施設の確保、指導薬剤師の育成に取り組んでいる一方で、大学側は共用試験CBT、OSCEなどの準備を着々と進めている。

共用試験の問題については現在、問題作成およびブラッシュアップ作業が進められている。CBTは昨年度に、4年制課程の3年生を対象とし、3800人が参加するトライアルを実施。今年度は9000人に規模を拡大して、第2回トライアルを行う予定

だ。OSCEでは、昨年度に12大学でのトライアルを行い、今年度は全大学で実施する予定となっている。

6年制では、学生たちは早期体験実習、事前学習を経た4年次に共用試験を受け、一定のレベルが証明された上で、晴れて長期実務実習を行うことになっている。

日病薬で実務実習問題を担当する矢後和夫常務理事(北里大病院)は、「6年制教育は現場薬剤師の関与なくして成立しない。もちろん、大学の責任の下に行われるのだが、大学だけでできるものでもない」とし、受け入れ側としての責務を十分に果たす構えを見せた。

しかし薬学部の急増で、学生が1万人を越す現状では、受け入れ側の負担は決して少なくない。そのため、「実務実習受け入れには、不適切な学生に対する受け入れ拒否も、当然あり得る」と、厳しい姿勢も見せた。

また実習先の調整には、各地区の調整機構を介すことで、日薬、日病薬をはじめとする関係団体の意見は一致している。しかしながら大学によっては、実習先の囲い込みともいえる行為が水面下で進んでおり、関係者は頭を悩ませている。

調整機構を通した円滑な実務実習を行うためには、この問題も早期の解決を要する不安材料の一つになりそうだ。



左から矢後和夫日病薬常務理事、見玉孝日薬副会長、山元弘 大阪大学大学院薬学研究科

平成19年10月2日時点

実務実習関係スケジュール予定

Table with columns for years (16-24) and rows for various entities: 関係団体, 日本薬剤師会, 薬学教育協議会, 日本薬剤師研修センター, 大学. It details schedules for workshops, exams, and training programs.

日本薬剤師会作成

Advertisement for 'Kurasys' (クラシス) featuring a smiling woman and text: '薬剤師というお仕事。薬学生のみなさま クラシス ベストな就職が実現!!'

Advertisement for 'Kurasys' (クラシス) with text: '就職の成功を支援いたします。豊富な求人情報... 登録から紹介まで一切無料です... 万全な体制でバックアップ... 薬剤師派遣スタッフ 同時募集'